

京都工芸繊維大学古美術研究会秋のOB会報告

2019年度の秋のOB会を11月16日(土)に開催致しました。

京都駅前、新都ホテルのレストラン“ル・ブレイズ”に集合し、下記の3部の構成で開催されました。古美術研究会顧問の准教授岩本肇先生と、OB8名、現役学生さん12名の21名が参加致しました。

- 1、まず昼食会を開催し、出席者の自己紹介の後、OBと学生さんとの間で会話を楽しみました。その後、講演会をし、そして近郊の寺院見学会と散策を実施。
- 2、特別行事として、顧問の岩本肇先生から、京都工芸繊維大学の創設から、大学に至る歴史のお話を頂きました。又、学校名である京都工芸繊維大学の芸の文字が示す意味、本来、校名にふさわしいかと思われる藝の文字を使用した場合の意味について講演を頂きました。初めて承りました貴重な講演で一同驚きと、感動の講演でした。
- 3、今回、OB会の日程に合わせて古美術研究会学生見学会を開催頂いて、都合の良いOBと一緒に参加させて頂き、寺院見学、散策に参りました。見学会から学生さん5名が合流され、東寺、東福寺塔頭の夜間拝観を楽しみました。



<新都ホテル前で昼食会・講演会参加者の集合写真>

講演会風景

講師の後方は
間仕切りの色
ガラスです



昼食会風景



東寺散策風景

火災で5度焼失し江戸時代に再建された日本一背が高い五重の塔。塔の中心柱を仏とみなして、都のどこからでも拝める様に高く作られたなど、お寺のお坊さんから詳しい説明を頂きました

講堂の21体の仏像は国宝、重文など素晴らしい美術品であり、他に例の少ない立体曼荼羅とされています。古い建物の中に安置された仏像を、製作時の場所、雰囲気で見学できる素晴らしいことでした。

金堂の薬師三尊像、十二神将像も立派なものでたいへん素晴らしいものでした



4、古美研会誌「鷗尾」の本年度版の受領について

古美術研究会在校生が年度毎にまとめられた会誌「鷗尾」の令和元年版を頂戴致しました。楽しみにしていましたもので、力作44編がまとめられています。OB会参加者にのみ配布頂いたもので、作品名と作者名のみを下記しておきます。

(作品名)

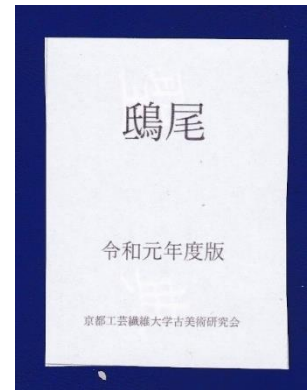
(作者名)

創作上に見られる中国人の語尾についての考察	植田泰成
「をかし」と「エモい」から多義語の価値を見出してみた件について	大野七瀬
世界と比較した日本の神話と価値観	渡会一輝
ノイシュバンシュタイン城	岡本明洋
呪いについて	松井溪
水族館の歴史	鈴木柊磨
韓国の寺社	松本幹基
酒の起源	佐々木秀隆
舞妓さんの歴史	松井洋樹
日本のお茶の種類について	中林萌
シュルレアリスムと日本	中村穂乃
蚕の社(木嶋座天照御魂神社)	橋本茉侑
「相撲の変遷について」	長野晃宙
京都の地名の由来と歴史	高橋京華
京都五山送り火	藤原桂奈
大徳寺の庭園に隠された西洋文化	大口悠里
縄文土器、弥生土器どっちが好き	櫻田聖人
大塩平八郎の乱について	垣本涼花
出雲神話	堀江楓子
「小原流(おはらりゅう)生け花	但馬和奏
着物産業について	横山大貴
京都	田鍋果歩
下鴨神社	大西真奈美
祇園祭	奥原亜希
土壁の魅力とその不思議	藤井陽菜子
なぜ神社、仏閣は魅力的なのか初めて見る世界に懐かしさを感じる理由	

(作品名)

(作者名)

大和比と現在デザイン	村岸康樹
31字で綴る恋、短歌	長澤歩美
清水寺	伊藤祐弥
日本人の宗教観について	角麻起子
江戸時代の日本の幹線道路	玉井陽博
能楽における美的感覚	脇本久喜
京都のパワースポット	西島佳汰
京都の町組と元学区	浅見結希
京都と茶の湯	谷美咲
皇居について	円城暁星
神仏習合という事実	大庭悠暉
日本の伝統模様に見え隠れした意味	阪上文音
南禅寺について	濱田望実
民芸運動	小南菜子
京弓	今井武蔵
禅について	清水陽太
新選組について	香川雛
	横溝剛



5、その他

登録されていますOB会員は約400名を超え、毎年新加入者の増加、未登録の元部員の追加もあり、名簿の整理をしつつ、連絡方法のメール化を推進されています。OBの皆様は是非メールアドレスの登録をお願い致します。参加したくなるOB会へと委員の皆様が努力されてることを報告致しておきます。古美研の皆さん今回も、企画、お世話、参加とありがとうございました。(記録;S41年入学 河島)